

平成 24 年 1 月の地震活動及び火山活動について

○ [地震活動]

1 月 1 日 14 時 27 分に鳥島近海で M7.0 の地震が発生し、関東地方及び福島県と宮城県で最大震度 4 を観測しました。

1 月 23 日 20 時 45 分に福島県沖で M5.1 の地震が発生し、福島県川内村^{かわうちむら}で最大震度 5 弱を観測しました。

1 月 28 日 07 時 43 分に山梨県東部・富士五湖で M5.4 の地震が発生し、山梨県富士河口湖町^{ふじかわぐちこまち}と忍野村^{おしのむら}で最大震度 5 弱を観測しました。

「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」の余震は、次第に少なくなっているものの、最大震度 4 以上を観測した地震が 6 回、震度 1 以上を観測した地震が 244 回発生するなど、引き続き岩手県沖から茨城県沖の広い範囲で発生しました。

国土地理院の GPS 観測結果では、「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」後の余効変動が継続していますが、その変動速度は小さくなってきています。

全国で震度 3 以上を観測した地震の回数は 39 回、日本及びその周辺における M4.0 以上の地震の回数は 140 回でした。

震度 3 以上を観測するなどの主な地震活動の概況は別紙 1 のとおりです。また、世界の主な地震は別紙 2 のとおりです。

○ [火山活動]

霧島山（新燃岳）では、今期間、噴火は発生しませんでした。国土地理院の GPS 観測結果では、霧島山周辺で、「えびの」－「牧園」、「牧園」－「都城 2」、「都城 2」－「えびの」の基線において、新燃岳で 2011 年 1 月 26 日に噴火が発生して以降、同年 2 月 1 日まで顕著な縮みの傾向が見られましたが、その後伸びの傾向が見られます。2011 年 12 月初め頃から、それまで見られていた伸びの傾向がやや鈍化し、2012 年 1 月以降ほぼ停滞しています。

新燃岳の北西地下深くのマグマだまりへのマグマの供給に伴う地盤の伸びは昨年 12 月頃から鈍化・停滞しています。マグマだまりに蓄積された多量のマグマが上昇すれば、噴火活動が再び活発化する可能性があります。新燃岳火口から概ね 3 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）が継続しています。

桜島では、昭和火口で爆発的噴火を含む活発な噴火活動が継続しました。昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要です。火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）が継続しています。

三宅島では、やや多量の火山ガスの放出が続いています。火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）が継続しています。

口永良部島では、昨年（2011 年）12 月 11 日から火山性地震の回数が多くなり、火山活動が高まった状態となりましたが、12 月 25 日頃から回数は緩やかに減少し、1 月 5 日以降は少ない状態で経過しました。その他のデータには、特段の変化は認められません。これらのことから、火山活動は低下しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められなくなったと判断し、20 日 11 時 00 分に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表し、噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から

1（平常）に引き下げました。

諏訪之瀬島では、12日に爆発的噴火が1回発生するなど、噴火活動は活発に経過しました。火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）が継続しています。

その他の火山の活動状況に特段の変化はありません。

注1：噴火警戒レベルには、レベル毎に防災機関等の行動がキーワードとして示されており、導入にあたっては、噴火警戒レベルの活用が地域防災計画等に定められることが条件となります。

注2：国土地理院のGPSによる地殻変動観測については、国土地理院ホームページの記者発表資料「平成24年1月の地殻変動について」を参照願います。

<http://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/2012-goudou0208.html>

注3：気象庁の地震活動資料には、気象庁、防災科学技術研究所及び大学等関係機関のデータが使われています。

注4：地震活動及び火山活動の詳細については、地震・火山月報(防災編)平成24年1月号をご覧ください。

注5：平成24年2月の地震活動及び火山活動については、平成24年3月8日に発表の予定です。